二見浦

二見浦の夫婦岩（夫と妻の岩）は日本の有名な景観です。大きな岩と小さめな岩が一緒に太い藁の縄でくくられています。昔は、二つの石は、神の世界と人間の世界を分ける門と考えられていました。現代では、二つの石は夫婦のシンボルと考えられています。ここは、新婚カップルに人気の場所で、夫婦岩の向かいにある神社では夫婦円満のための御守りが売られています。 神社には、「無事に帰る」ことを象徴するカエルの像も多数あります。

5月から７月にかけて、ちょうど2つの岩の間から太陽が昇ります。満月も、11月から2月まで、完全に岩の間から現れます。歴史的には、この場所は日本で最も重要な神社である伊勢神宮にお参りする前に身体を清めるために使われていました。

近くには、賓日館（ひんじつかん）があります。これは、かつて皇室が休暇中に使った邸宅で1887年に完工しました。その内部は、日本の伝統と西洋風の装飾が混ざり合っており、中でもそれが最も良くあらわれているのが大広間です。壁と床は日本の様式ですが、天井からは目を見張るようなシャンデリアが下がっています。